

子ども読書支援センターは、子どもの読書に関わる大人の方々をサポートする山梨県立図書館の機能です。当センターの事業や活動内容についてご紹介します。



ティーンズコーナー(中学生・高校生向け)展示

「科学道100冊傑作選」を開催中です！(～11月13日)

ティーンズコーナーでは年4回、おすすめの本を紹介する展示を行っています。8月から11月のテーマは「科学道100冊傑作選」で、科学道100冊委員会(理化学研究所、編集工学研究所)が選定した「科学道100冊傑作選」から約90冊を紹介するほか、同委員会が選定した「科学道100冊ジュニア」から約60冊の本を展示しています。

「科学道100冊傑作選」からは、ロボットに自分のニセモノになってもらうため「自分らしさ」とは何かについて考える『ぼくのニセモノをつくるには』(ヨシタケシンスケ/作 ブロンズ新社(2014年)や、さまざまな古生物の実際の大きさを伝える『リアルサイズ古生物図鑑 古生代編』(土屋健/著 技術評論社 2018年)などを展示しています。



また、「科学道100冊ジュニア」からは、骨が地球の誕生からの歴史の中でどのように進化してきたかが書かれている『ながいながい骨の旅』(松田素子/文 川上和生/絵 講談社 2017年)のほか、「こどもにすすめたい本2017」にも選ばれた『ややっ、ひらめいた！奇想天外発明百科』(マウゴジャタ・ミCHEルスカ/文 アレクサンドラ・ミジェリンスカ/絵 ダニエル・ミジェリンスキ/絵 阿部優子/訳 徳間書店 2016年)などを展示しています。ぜひご覧ください。

展示している本のブックリストはホームページで公開しています。



ティーンズコーナー

<https://www.lib.pref.yamanashi.jp/teens/index.html>

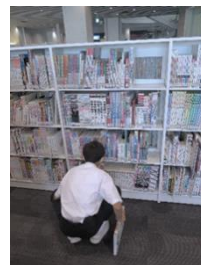
「ティーンズコーナー」のページ

令和6年度 中学生職場体験・高校生インターンシップ 報告

7月31日(水)～8月2日(金)、8月7日(水)～9日(金)の6日間、県内の中学生・高校生30名が職場体験・インターンシップ(一日体験)を行い、県立図書館の仕事を体験しました。

館内見学の後、図書館利用カードの作成、返却・排架、本・雑誌・電子書籍の検索、おすすめ本を紹介するPOPの作成など、様々な図書館の業務を体験していただきました。

「将来の夢は図書館司書」という生徒が多く、体験の感想として「POPは、作りながら本の魅力をどうすれば興味を持ってもらえるかを考えることができて楽しかった」「排架は本を番号順に並べるため大変だった」「コミュニケーション力が必要だと思った」などが寄せられました。作成したPOPはホームページに掲載するほか、1階ティーンズコーナーに展示します。ぜひご覧ください。



▲排架
(本を棚に戻す作業)



▲本・雑誌・電子書籍の検索



▲POPの作成



▲作成したPOP

第1回・第2回 子どもの読書オープンカレッジを開催しました

「子どもの読書オープンカレッジ」は、山梨大学附属図書館子ども図書室との共催で年5回開催している、子どもの読書について学ぶ初心者向けの講座です。



▲木村有子氏

第1回は、5月23日（木）にチェコ語翻訳家の木村有子氏を講師に迎え、「もぐらくんからチャベックまで ～チェコの暮らしと子どもの本～」と題する講演会を行いました。図書館職員や学校司書、一般の方、図書館ボランティアなど48名の参加がありました。

チェコの子ども本の代表的な作家・作品について、ご自身がチェコで暮らした体験を交えてご紹介いただきました。チェコで昔話が大切にされ、身近にあることの理由として、社会主義時代のチェコの人々にとって、“口承”が文化を守るための切実な行為だったからではないか、といった考察もお話いただきました。チェコの文化や、紹介された本の刊行当時の時代背景についても学ぶことができました。

受講者からは、「子どもの本を中心にどの話題も興味深くあっという間の時間だった」「意識してチェコの本を読んで、その中から何か子どもたちに読んであげることができたらと思っている」などの声が寄せられました。

第2回は、7月11日（木）に「昔話の語りっこ」と題して、山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子氏を講師に迎え実施しました。図書館職員や一般の方、学校司書、教員、学生、図書館ボランティアなど40名の参加がありました。

前半は、昔話・伝説の特徴や語り方のことについてご講義いただきました。

後半はグループに分かれ、講師が語る、こわい話「大橋の化物」、かわいそうな話「カッコー鳥」、おもしろい話「鳥呑み爺」をその場で覚えて語るワークショップ形式でした。

藤巻氏は、このワークショップについて「伝承が凝縮したもの」と表現し、また、「“場”をつくるのは語り手と聞き手の両方だ」というお話もされました。参加者全員が語り手と聞き手の両方を体験する貴重な機会となりました。



▲藤巻愛子氏

受講者からは、「語りの面白さ、大切さをあらためて感じる事ができた」「初めての語りだったが、楽しい時間だった」などの感想が寄せられました。